

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:29-31.

術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズ

片岡 聖佳, 森田 さと美, 伊藤 綾華, 山近 真実, 井戸川 みどり

術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズ

キーワード：術前診察 術前オリエンテーション ニーズ 手術看護

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション ○片岡聖佳、森田さと美、伊藤綾華、山近真実、井戸川みどり

はじめに

近年、各病院で麻酔科外来や手術室看護師窓口など術前訪問とは違い、患者が診察に来訪して麻酔科の術前診察を行う形が導入されている。A病院手術部では、個別的な看護計画の立案、インフォームドコンセントの状況や患者の意思確認、手術に対する不安軽減を目的に術前訪問を実施してきた。さらに、2013年度には麻酔科医師－手術室看護師間で患者についての情報共有、効率的な術前診察の実施、患者のプライバシー確保を目的として手術室横に術前診察室を設置し術前オリエンテーションを開始した。看護師が術前診察室で日々患者にオリエンテーションを実施する中で、患者からは「医師には聞きにくいことでも、看護師になら言えることもある」「手術室のホールを見てみたい」「麻酔科の診察直後に看護師のオリエンテーションを受ける方が理解しやすい」という発言がきかれた。そこで麻酔科の術前診察後に行う看護師のオリエンテーションに患者が何を求めているかを知りたいと考えた。

軍司らは患者が必要としている情報は周手術期全般にわたり様々であること、個々のニーズをとらえた関わりを一貫して行うことが必要であることより、術前訪問を受ける患者のニーズについて明らかにされている。しかし、術前診察室でオリエンテーションを受ける患者のニーズについて明らかにした研究はない。そのため、術前診察室で麻酔科の診察後に手術室看護師のオリエンテーションを受ける患者のニーズを明らかにしたいと考えた。

I. 研究方法

1. 研究期間

平成27年9月1日～10月31日

2. 研究対象

A病院に、泌尿器科、皮膚科、歯科口腔外科、眼科に手術目的で入院し、術前診察室で術前診察を受け、術後のコミュニケーションが可能な患者5名とした。

3. データ収集方法

1) 術前オリエンテーションの流れ

麻酔科医師による術前診察時に手術室看護師も同席し、診察終了後パンフレットを使用しながら術前オリエンテーションを実施する。内容は手術室

入室から退室までの流れ、手術体位や体位による身体へのリスクなどについて15分程度の説明を行っており、家族の同席も可としている。

術後訪問は対象者が術後離床し、面接実施が可能であることを病棟看護師に確認して行った。

2) 術前診察時に研究目的を口頭・文書で説明し同意を得た。

3) 面接はインタビューガイドを基に術前診察時や看護師の術前オリエンテーション時に感じたこと、術前診察室でのオリエンテーションに対する要望を半構成面接法で聴取した。対象者の許可を得て面接内容を録音し、逐語録に起こしたものをデータとした。

4. データ分析方法

録音した面接内容から逐語録を作成し、逐語録から術前診察室で診察やオリエンテーションを受けた印象や意見、要望を抽出しコード化した。類似したコードをまとめてカテゴリー化し分析した。

5. 倫理的配慮

研究の目的、方法、プライバシーの保護、データは本研究以外で使用しない事、不参加による療養上の不利益は生じない事、研究参加を途中で辞退する事による療養上の不利益は生じない事、得られたデータは個人が特定されないように処理し、一定期間保存後破棄する事を文書と口頭で術前診察時に説明した。

当研究は、研究者の所属する施設の倫理委員会にて承認を得た上で行った。

II. 結果

1) 対象者の概要 (表1参照)

対象者は泌尿器科2名、眼科1名、歯科口腔外科1名、皮膚科1名であった。面接の平均時間は22.3分、面接実施の術後平均日数は3.6日であった。面接から53個のコードが抽出され、8個のカテゴリーに分類された。

表 1.患者概要

	性別	年齢	診療科	術式
A	男性	20代	眼科	角膜移植術
B	男性	20代	歯科口腔外科	埋伏歯抜歯術
C	男性	70代	泌尿器科	根治的前立腺全摘除術
D	男性	50代	泌尿器科	尿管膀胱新吻合術
E	男性	40代	皮膚科	皮膚悪性腫瘍切除+人工真皮貼付

【事前に手術する場所を見たい】では「ホール見学は心の準備ができてよかった」「手術室見学をしたかった」などの意見や要望が聞かれた。

【麻酔について知りたい】では、「全身麻酔がどんなものか想像できると安心感が出てくる」「全身麻酔は初めてだが全身麻酔がどういった麻酔なのか理解できた」などという意見が聞かれた。また、全身麻酔や硬膜外麻酔、術後の合併症について知りたいという意見があった。

【入室から退室までの流れを知りたい】では、「入室から退室までの流れを説明してくれたから流れをつかむことができる」「順序だてて話してもらえれば安心する」などの意見が聞かれた。

【術後の状況を知りたい】では、「傷の状態や痛みを程度を知りたかった」「手術が終わった後どうなのだろうということはある」「退院のめどがどのくらいになるのか教えてもらえたらうれしかった」など、術後の状況を知りたいという意見が多かった。

【麻酔科の診察と看護師のオリエンテーションを続けて聞いてよかった】では、「内容の重複する部分は確認になったからよかった」「麻酔科の診察のあとに看護師のオリエンテーションを受けて、話をたくさん聞いて大変だとは全然思わない」「喉に管を入れることの想像が難しかったが、看護師の説明、パンフレットでよくわかった」という意見が聞かれた。

【術前診察に家族がいる安心感】では、「やっぱり医者と個室で話すのは緊張してしまう」という意見がある一方で、「緊張は特にしなかった、僕の場合は家族が同席できたので」という意見もあり、家族が同席することで緊張が緩和されていた。また、「看護師のオリエンテーションでこういう麻酔をかけるとか、家族も理解することができてよかった」「妻からも質問させてくれて、特にわからないことはなかった」という意見も聞かれた。

【麻酔科の術前診察に看護師がいる安心感】では、「看護師と一緒に付き添って頂けるならとても心強いと思った」「看護師もいてくれたし、緊張は特にしなかった」などという意見が聞かれた。その他にも「麻酔

の先生にはやっぱり聞きたいことを聞けたかということそうではない」「間違った説明があった時に看護師が気づくこともあっていいのではないか」「血液の検査結果を麻酔科の診察後の看護師のオリエンテーションと一緒にしてもらい問題なくて安心した」という意見もあった。

【顔見知りの方が手術当日にいる安心感】では、「診察について人がそのまま手術につくことは安心する」という意見があった。

III. 考察

1.術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズ

術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズは【事前に手術する場所を見たい】【麻酔について知りたい】【入室から退室までの流れを知りたい】【術後の状況を知りたい】であった。鷲澤らは術前における不安の増強因子として未知の事象が大きく影響している。例えば、手術によって自身の身体や生活がどうなるのか、治療などの医療行為がいつごろから、具体的には何が始まるのか、誤った情報以上に、情報がないことは大きく影響していると述べている²⁾。患者は手術によって自身の身体にどのような変化があり、どのような経過を辿るのかを知ることで不安が軽減されるのではないかと考える。術前訪問における患者からの質問内容として、手術室の様子、入室から手術終了後の退室までの流れ、創傷部位や大きさ、麻酔についてなど³⁾が挙げられている。本研究の結果から得られたニーズは、術前訪問におけるニーズと合致していた。術前訪問においても術前診察室におけるオリエンテーションにおいても、患者が抱えているニーズは変わらない。また「わからないことよりも分かったほうがいい」「理解していれば何があっても納得の上だ」という表出があり、患者は自分自身で理解し納得した上で手術を受けたいという思いがある。奥野らは、患者自身が治療の流れを知識として習得することにより、自分の受ける医療に関心を持ち、積極的に治療に臨めるようになる⁴⁾と述べている。看護師は、手術や麻酔に関する情報提供や、患者が医師や看護師に質問や意見が言える環境を調整し、患者が納得して手術が受けられるよう介入していく必要がある。さらに、これまでの術前オリエンテーションでは術後の状況について詳しく説明していなかったが、患者がこのようなニーズを持っているということを理解しオリエンテーションを実施していく必要がある。患者の思いやニーズの表出ができるように関わり、患者が抱えている術後の心配事を病棟看護師や麻酔科医師、外科医師と情報共有し、チームで患者を支援していくことが重要である。

患者からは手術室を見たいという意見もきかれた。今回は実施できなかったが、実際の手術室を見ることで事前に手術当日の雰囲気を経験することができ、未知への不安を軽減するために有効であると考え。しかし、手術室を事前に見ることで不安や恐怖を増強させることも考えられる。そのため、ホールや手術室見学は患者の意向を確認し、患者の状態や必要性を判断して行う必要があると考える。

また、術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズとして【術前診察に家族がいる安心感】【麻酔科の術前診察に看護師がいる安心感】【顔見知りの人が手術当日にいる安心感】という心理的欲求もあることが明らかになった。梶原は、インフォームドコンセントにおいて看護師は、患者の擁護者、調整役としての役割を認識し、患者の意思決定支援を支える必要があると述べている⁵⁾。

術前診察室は術前訪問と違い麻酔科の診察に看護師が必ず同席できるため、上記にあげた看護師の役割をタイムリーに果たすことができる。今回の研究で、患者は診察時に看護師が付き添うことで心強さを感じており、看護師の存在が心理的な支えになっていたと考えられる。

一方で患者からは、麻酔科医師に聞きたいことを全部聞けなかった、あるいは、こういったことを聞いていいのか、というためらいも見受けられた。戸本らは、患者には家族や親しい人以外には依頼できない、困ったことがあっても口に出せない、医療者への遠慮が存在すると述べている⁶⁾。それが患者背景にあることを看護師は踏まえ、患者が質問しやすい声かけや環境づくりと診察後の看護師のオリエンテーション時には、診察時に聞けなかったことや理解度の確認をして補足、説明をしていく必要がある。また診察に、家族が同席することで、患者は一人で診察を受けるよりも緊張が軽減された状態で診察を受けることができていた。そのため、診察時の家族同席は患者の心理的支えになっていると考える。

2.術前診察室での看護師の役割

術前診察室では麻酔科の診察に看護師が必ず同席でき、家族も術前診察室に同席できるため患者・家族の反応を観察し、患者が質問しやすい声かけや環境づくりを行う必要があり、患者・家族の代弁者としての役割を果たすことが重要である。

また、術前診察室は手術室と隣接しているため患者の意向を確認し、ホールや手術室見学を行い、未知への恐怖や不安が少しでも軽減できるよう手術や麻酔に関する情報提供を行うことが重要であると考え。患者・家族のニーズを病棟看護師や麻酔科医師、外科医

師と連携して充足させていくことも必要と考える。

IV.結論

1. 術前診察室で術前オリエンテーションを受ける患者のニーズは【事前に手術する場所を見たい】【麻酔について知りたい】【入室から退室までの流れを知りたい】【術後の状況を知りたい】【麻酔科の診察と看護師のオリエンテーションを続けて聞けてよかった】【術前診察に家族がいる安心感】【麻酔科の術前診察に看護師がいる安心感】【顔見知りの人が手術当日にいる安心感】であった。

2.術前診察室で看護師の役割

- 1) 患者が質問しやすい声かけや環境づくりを行い、患者・家族の代弁者としての役割を果たす。
- 2) 患者の要望に応じて手術室見学などを行い、患者の不安が軽減されるよう手術や麻酔に関する情報提供を行う。
- 3) 患者・家族のニーズを病棟看護師や麻酔科医師、外科医師と連携し充足させていく。

おわりに

本研究は対象者数が少なく、年齢や診療科、麻酔方法などの違いによる検討が行えなかった。今後は対象者を増やし、比較検討を行っていききたい。

引用文献

- 1) 軍司希他:手術を受ける患者が術前に必要としている情報の調査-術前窓口開設に向けて-,日本手術学会誌,2008,4(1),58
- 2) 鷲澤尚宏他:周手術期不安軽減と開腹意欲の励起策,外科と代謝・栄養,2014,48(1),29-34
- 3) 中村晴美他:手術室看護師と病棟看護師の連携を強化する術前訪問の検討,OPE nursing,2005,20(7),84-91
- 4) 奥野久美子他:集中治療室における緊急手術術前の関わり-患者家族の思いと看護師に求められること-,日本看護学会論文集,2013,27-30
- 5) 梶原由美:インフォームドコンセントにおける看護の役割;ホームレス患者の意思決定支援を通して,日本看護学会論文集看護総合,2014,44,90-93
- 6) 戸本悠介他:顎強制手術を受ける青年期患者への術前オリエンテーション-手術室看護師のかかわりから-,日本看護学会論文集成人看護 I, 2014,57-60